

分 か る と 快 感 !

# Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

## 奈良時代のスーパーヒーロー!? 吉備真備ってどんな人?

(東京大学 1997年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

奈良時代は政治の争いも多く、政権交代が何度もありましたが、その中で地方豪族出身の吉備真備は、長期にわたって政界で活躍し、右大臣にまで上ることができました。それはなぜか、その理由を説明しなさい。

古代の日本は、中国に使者や留学生を送って、彼らが得た知識を国づくりに生かしました。吉備真備もその一人で、中国に渡った後、最終的には右大臣(政府内で3番目に高い役職です)の地位まで上りました。今回は、真備の波乱万丈な83年の人生を見ていきましょう。

### 遣唐使後の政府での活躍

現在の岡山県に生まれた吉備真備は、717年に阿倍仲麻呂、玄昉らとともに遣唐使として中国に渡りました。中国では儒教や歴史のほか、天文学や音楽・兵学などを広く学び、「日本の留学生で唐で名をなした者は真備と阿倍仲麻呂の2人のみである」と言われるほどでした。真備と並び称された阿倍仲麻呂は、中国に残り、難関といわれる中国の官僚試験(科挙)に合格して中国皇帝に仕えました。

日本に帰国した真備と玄昉は、その最新の知識を頼られ、急速に昇進します。そして、聖武天皇の下で右大臣を務めた橘諸兄に重要な役割を与えられ、政府内で活躍しました。その活躍ぶりは、有力貴族であった藤原広嗣が真備と玄昉を倒そうと反乱を起こすほどでした。しかし、反乱は鎮圧されました。



イラスト・瑞木匠

## 中国で学び 日本で応用

政府を追われ、2度目の中国へ

聖武天皇の娘である孝謙天皇の時代になると、藤原仲麻呂が政治の中心になりました。真備は藤原仲麻呂により政府を追われ、九州地方の国を治めることになりました。その後、遣唐使としてふたたび中国に渡ることになりました。中国では阿倍仲麻呂と再会を果たし、さまざまな事物を学んだ後、帰国します。この時、仏教の制度を日本にもたらした中国の僧である

鑑真も一緒に日本に入国しています。

帰国後は九州の大宰府の役人となり、暦を刷新したり、国防のための設備を整えたりと活躍します。その後、政府に戻ることになり、藤原仲麻呂が朝廷に起こした反乱を、兵学の知識をもとに鎮圧します。そして昇進を重ね、ついに真備は右大臣まで上り詰めたのでした。

ちなみに、2回目の遣唐使の際の吉備真備の活躍が、『江談抄』や『吉備大臣入唐絵巻』に描かれています。遣唐使の吉備真備が中国でとらわれ、生き霊となった阿倍仲麻呂に導かれて皇帝による無理難題を解いて帰国を果たす、という内容です。作り話ではあるのですが、初めて読む中国の書物を短期間で暗記したり、囲碁のルールを瞬時に覚えたりと、吉備真備のヒーローぶりがうかがえる内容です。とくに絵巻は、空を飛んだり囲碁名人との勝負に勝つために碁石を飲み込んだりとおもしろい場面もたくさんあるので、機会があれば、ぜひ見てみてください。

【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓  
学者から右大臣まで出世した人物は、古代では菅原道真と吉備真備の2人しかいません。出世といえば豊臣秀吉が代表的ですが、吉備真備も大出世を果たした偉大な人物でした。

河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。